

令和4年3月1日開会

令和4年第1回木曾岬町議会定例会

行政報告

町長

先ず、新型コロナウイルス感染症について報告させていただきます。

今年こそは収まってほしいと期待していましたが、年明けから、感染力の強いオミクロン株による新規感染者が急増し、1月21日に「まん延防止等重点措置」が三重県にも適用されました。

一方、木曾岬町は、昨年10月4日までの感染者が55人で、それ以降3ヶ月程は0人でしたが、1月8日から1月20日までに7人発生し、約2年間で62人の感染が確認されましたが、感染率は（三重県下）北勢地域の10市町の中で最も低い町でした。

ところが、それ以降、急激に感染拡大が続き、本町においても、感染者が日毎に確認されるようになり、対策本部会議において、まん延防止等重点措置適用中であるが、緊急事態宣言中と同様の対策を取る事とし、公共施設の閉鎖、会議及び行事の延期若しくは中止或いは書面会議とする等、適宜適切な対応を取って参りました。

しかし、2月3日には三重県全体で1日の新規感染者が

1,013人と過去最多となり、本町では、まん延防止等重点措置の適用後2月26日までの1ヶ月余りでそれまでの約2年間の3倍以上の192人の感染者が確認され、合計で延べ254人の感染者が出ており、大多数の方々が自宅療養されております。

過去最多の日で10万人当たりの新規感染者は三重県で56人、木曾岬町では211人となり、三重県全体の4倍近くとなり、感染率は29市町中最も高くなっています。

こうした厳しい状況が続いており、町民の皆さんには、人との接触機会を減らす事と換気やマスクの着用、手洗いと消毒等の感染防止対策の徹底を促すと共に、桑名保健所と連携して、自宅療養者の支援に取り組み、急増する自宅療養者に対するフォローアップ体制を整備し、自宅療養者の生活支援及び不安解消に努めております。

なお、小中学校やこども園の感染拡大防止対策として、学年・学級閉鎖や登園自粛などに取り組み、学校教諭及び保育士においては、定期的にPCR検査を実施し検査体制を確立しております。

一方、ワクチン接種については、2回目接種を概ね6ヶ月以上経過した方々を対象に3回目接種の計画を策定し、昨年の8月までに2回目接種を終えた18歳以上の方々については、今月の3月6日に完了を見込み、本町における2月25日現在の3回目接種者は2,733人、接種率は50.9%でございます。

また、国は5歳から11歳までの子どもの新規感染者数の増加に伴い感染者数全体に占める割合が増加しており、人口全体の感染者数や重症者数を減少させる効果が期待されることから、厚生労働省が5歳から11歳までのワクチン接種を特例臨時接種として位置付けました。

このことから、本町においても新規感染者が急増している5歳から11歳までの子どもを対象に、接種計画を策定し、既に予約済みの3回目接種の完了予定となる3月6日以降の3月11日からワクチン接種を開始する予定で進めております。

今後、感染防止対策を徹底すると共に、迅速かつ適切な実施体制の確保等、町民の皆様が安心して暮らしていただ

ける様に万全を期して参りたいと考えておりますので、何卒、ご理解、ご協力を賜りたいと考えているところでございます。

次に、二之湯国土強靱化担当大臣の本町視察について報告させていただきます。

昨年10月、二之湯智先生は、国家公安委員長と国土強靱化担当兼防災担当等内閣府特命大臣に就任されました。以前から各省庁への要望活動の際には、ご指導いただいていた先生であり、大臣は、木曾岬町が伊勢湾台風によって甚大な災害を経験した事、更に、その後の復旧・復興と教訓を生かした本町の防災対策の取り組み等について注目されており、大臣就任後、国土強靱化と、防災対策の視察として、昨年12月18日に木曾岬町を訪問された次第であります。

当日、二之湯大臣は内閣官房国土強靱化室の五道仁実次長、並びに中部地方整備局 山本副局長と共に、先ず、鍋田川上水門を視察され、続いて、源緑地区河川防災ステーションをご覧いただき、町防災センター屋上から、町内全景と木

曾川や伊勢湾を一望いただき、伊勢湾台風の惨状や高潮と輪中集落の被災状況等説明させて頂き、木曾川下流河川事務所の高橋所長から、高潮堤防耐震工事や河川防砂ステーション等について説明いただきました。

その後、木曾岬干拓地を視察され、続いて、役場庁舎へご案内し、急遽、一見三重県知事が駆けつけていただき、大臣と内閣官房や国交省の方々と面談されました。その後、庁舎内の排水機の集中管理システムと防災指令本部の各種機能等や海拔ゼロメートルの輪中特有の知恵を生かした防災拠点としての複合型施設を熱心にご覧いただきました。この時、町議会の皆さん全員が、風が強く厳しい寒さの中、屋外でお出迎えをいただき、二之湯大臣が、大変恐縮され、感激されておられました。本当にありがとうございました。

その後、大臣がかねてから関心を寄せておられた伊勢湾台風の惨状と復旧・復興について説明を交えながら町が保有する写真をスライドでご覧いただき、本町が60年以上の歳月をかけ築いてきた町の軌跡についてご説明させていただきました。

視察を終え記者会見で、二之湯大臣からは、「高潮堤防の嵩上げや水門の遠隔操作など様々な防災を意識した町づくりがされており、伊勢湾台風を教訓に災害に強い町を作っていこうとする意気込みを感じた。」というお言葉をいただき、木曾岬町にとりましては、またとない貴重な内閣官房による国土強靱化兼防災担当大臣の視察であったと思います。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

以上を申し上げまして行政報告と致します。